

それぞれの研修生に一定量の調査票を渡し、各自の所属している企業の従業員に答えてもらうという形を取った。また、北京市の約40人分ぐらいサンプリングは、中国人民大学社会学部の沙蓮香先生のご協力のできたのである。この部分のサンプリングは、上海、湖北武漢市、湖南平江県のサンプリングと合わせて、沙先生のご協力による。上海、湖北武漢市、湖南平江県のサンプリングは企業別に行われた。企業に働いている人もいれば、飲食業、サービス業、ホテル飯店に働いている人もいる。調査員は現地大学の研究者である。彼らの希望によって、名前と大学名をここで紹介しないことにする。

中国では、三大都市あるいは直轄市といわれて

いる北京、上海、天津に加えて、昨年度から新たに重慶が直轄市に昇格した。今回、重慶のサンプリングはないが、従来の三大都市のデータを用いることで、十分問題を把握できるだろう。したがって、今回の調査研究は、重点を三大都市において検討する。湖北武漢市、湖南平江県の調査データは、都市部との比較研究を行う予定である。

調査結果を表す概況は下記の表1、図1～図6<sup>6)</sup>を参照されたい。全体の男女構成比は女性が比較的多かった。その理由は、天津の合弁企業H社では、組み立て作業がメインで、一部の機械作業と管理者を除いて、女性従業員が主力であるためである。北京では、主に管理職あるいは行政幹部が多いため、学歴も相対的に高い。

表1 地域別の対象者数

Value Label	Value	Frequency	Percent	Valid Percent	Cum Percent
天津	1	701	53.9	53.9	53.9
北京	2	336	25.8	25.8	79.7
上海	3	93	7.1	7.1	86.9
武漢	4	132	10.1	10.1	97.0
平江県	5	39	3.0	3.0	100.0
Total		1301	100.0	100.0	

図1

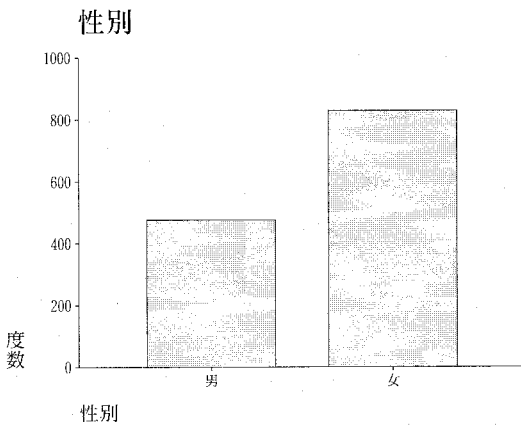
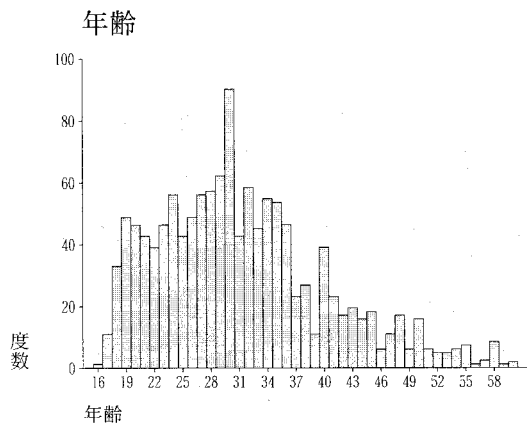


図2



6) 図1～図6の結果記述：a. サンプリングの男女比率は男性36.4%、女性63.6%、全体的に女性のほうが多い。その理由については、すでに説明した。b. 年齢分布は20歳から36歳までの割合が高い。約7割ぐらいを占めている。c. 民族は漢民族96.2%、回族2.1%で、残りは朝鮮族、満族、蒙古族、壮族、土家族、タイ族、ヤオ族、水族、苗族である。d. 戸籍は、都市戸籍80.7%、農村戸籍18.5%、無戸籍0.8%である。e. 教育水準は、不識字と小学校をあわせて1.4%、中卒30.1%、高卒28.9%、専門学校10.8%、短大と大学をあわせて28.8%である。f. 現在の職務は、労働者58.1%、現場管理職8.3%、工場管理職12.2%である。次に、回答の結果を報告するが、結果の数値は絶対的な意味があるということではなく、それぞれ数値の関連性から相対的な意味をとらえた。